池田市環境学習推進事業

令和４（2022）年度いけだ環境交流会（エコ活動報告会×環境学習交流会）実施報告書

１．事業目的

池田市において令和４（2022）年度に実施された環境施策について実施事例の共有を図り、環境保全活動の水平展開と SDG s の価値観による持続可能な社会構築の契機とすることを目的に本事業を開催しました。

２．開催日　2023 年 3 月 18 日（土曜日）10:30～12：00

３．開催方法　Zoom ウェビナー方式によるオンライン開催

４．主催　池田市

企画運営事務局：NPO 法人いけだエコスタッフ（池田市環境学習推進事業受託）

５．実施内容

10 時 30 分　開演　主催者挨拶

主催者挨拶　池田市市民活力部環境政策課　矢野課長

司会　池田市市民活力部環境政策課　荒木

10 時 35 分　池田市の環境活動報告

①池田市の環境施策の実施状況について

池田市市民活力部環境政策課　高井

②エコミュージアム（池田市立３R 推進センター）の活動報告

NPO 法人いけだエコスタッフ　片岡（指定管理受託）

10 時 40 分　池田市環境学習推進事業の報告～池田市内小学校での取組事例紹介～

・「SDG s の取り組みについて～1 年間の学習」

呉服小学校 4 年生の子どもたちと川脇先生

4 年生のすべてのクラスでＳＤＧｓの学習に取り組みその成果を地域の方々と一緒に「エコマート」という形で共有しました。

1 年間の学習の中では、阪急ゆめまちプロジェクト、アサヒ飲料「カルピス容器リサイクル」「ＳＤＧｓポスター展」「猪名川河川レンジャー」をはじめ子どもたち自身の「世界の環境問題」の調べ学習や、ウクライナからオーストリアに避難し生活を送っている人、奄美大島の小学校とのオンラインを通じた交流など幅広く学習しました。エコマートの収益金をウクライナの支援金として寄付しました。

・「みどりっこトープ大作戦」

緑丘小学校５年生の子どもたちと吉岡先生

校庭にあるビオトープの再生活動に子どもたちが 3 年生の時に一度取り組み、それから 2 年経過した 5 年生で再度チャレンジしました。活動の３つのテーマの頭文字をとって「みどりっ子トープ」と名づけました。

『み』みんなが気軽に立ち寄れる

『ど』どんないきものでもすごしやすい

『り』理想の環境が維持できる事

ビオトープ管理士の方や生き物専門の外部有識者の方々に教わりながら、自分たち自身で調べ考えアイデアを出してビオトープの再生に取り組みました。ビオトープの活動を通して「地球温暖化」「酸性雨」「食べ残し」「森林伐採」「ポイ捨て」など幅広い興味関心の学習に発展しました。

・Ｑ＆Ａ

12 時　　終演

６．参加者について

①参加対象　　一般市民、池田市出前授業講師など

②申込者の状況　21 名　　参加者数　29 名（パネリスト、学校関係者を含む）

区分	件数
教員・教育関係	2
大学生	2
一般	17
計	21

７．Ｑ＆Ａコーナー

Q：授業を実施して子供たちの意識が変化したと感じたことはありますか？
A:緑丘小学校　吉岡先生 今回の活動は、総合の時間以外の時間にもつなげて授業をしました。例えば国語や社会の自然災害のことに、ビオトープのことをつなげながら考えている児童が多かったと思います。国語の意見文を、各授業では環境問題の解決や社会を良くするためにどのような事が出来るのかなといったことを意見文にしている児童が多くいて、身近な環境や課題について考えられる児童が多いと感じています。
A：呉服小学校　北脇先生 子どもたちに 2 学期、3 学期と振り返りを書いてもらいましたが、ほぼ全員が、こちらがとらえてほしいという答えに到達できていました。例えば、SDG s は自分にとってどのような取り組みだったのかという問いに対して、「地球のことを考えてみんなで取り組むものだ」という答えや「続けていくもの」

だと、「簡単なことでいいので続けていくことに意味がある」と答えている児童もいました。「次の世代を担う自分たちがやっていかなくてはいけないことに気づきました」といった振り返りが書かれていて、ねらい通りというか「SDGｓがねらっているもの」に子供たちがきちっと受け止めれているなと感じています。
Q：1 年間の活動がとても盛りだくさんで、総合の学習だけでは足りないのではないかと思いますが、何か工夫されたことはありますか？
A：緑丘小学校　吉岡先生 総合の時間をほとんど使いましたが、それだけではなく社会や国語など他教科と関連付けて科目横断的に取り組むことで、活動もより深まり時間もしっかりとれたかと思います。
A：呉服小学校　北脇先生 週に 2 時間の総合の時間を、春の段階で学年のどのクラスも同じように曜日時間を固定して授業を行いました。廃油せっけん作りやヘチマたわし作りなどの授業は、1 時間だけでは厳しいので 2 時間或いは 3 時間続きですることはありましたが、それ以外は 1 時間で完結してやってこれたと思います。
Q：呉服小学校さんの場合は、阪急電鉄やアサヒ飲料あるいは奄美大島の小学校との交流授業など、学校の外の方たちと連携して授業を実施されていましたが、どのような経緯でそういった学校の外の方たちと結ぶことができたのですか？
A：呉服小学校　北脇先生 アサヒ飲料さんは、偶然なんですが、アサヒ飲料が取り組んでいるリサイクル運動に協力してもらえないかという FAX が学校に届いていてたまたまそれを見つけて「これやってみよう」という感じで応募したのがきっかけです。阪急電鉄さんは、池田市を出発点として大きくなった会社なので「話がしたいな」というのと、SDGｓをテーマにしたラッピング列車を子どもたちが知っていたので、どうしてもつながりたいという思いで、こちらから電話をさせていただいたところ、快諾をいただきつながりました。奄美大島の小学校とのオンライン交流は、これもたまたまなんですが、読売新聞で SDGｓ新聞というものが学校に届き、その中に同じように SDGｓをテーマにした学校紹介の募集に応募したところ、エコマートの時に取材に来ていただき、その記者の方から奄美大島の学校とつながりませんかというご提案がありつながることができました。何かアクションを起こしたというよりも、色んな人と知り合う中でつながりが増えていったのが大きいかなと思っています。

８．情報提供

参加者の方から SDGｓに関係する情報提供がありました。

阪急電鉄さんでは、NATS（中核市の 4 市　西宮市、尼崎市、豊中市、吹田市）共同取組みで駅構内に給水スポットを実証実験で 9 月 11 日から 11 月 14 日まで岡町駅・西宮北口駅・園田駅・北千里駅に設置をしてありました。更に、実証実験の内容を社内で検討され、近日中実証実験ではなく設置に向けて動いていただいています。

以上